特26
299

試驗及法

特26
229 No 23929

試驗及求法

黑田廣哉著述

大阪鳳文社發兌

試驗及第法

黑田廣哉著述
川島太郎校閲

旨

我國古來位官を附するに門閥登用の弊習行われ學なく才位高官にある人あり才あり學あつて而して官位を占むる能はざるものあり近來漸く其風一洗して專ら英俊の士を擇で其任に充つることとなりたり然と雖ども間々緣故を以て非分の高官となり父祖の官職を襲ふて美位にあるもの等一々公平不扁の擇人法と云ふを得ざるの歎

なきにしもあらざるなり我が政府茲に見るあり明治二十年七月勅令第三十七號を以て文官試補見習規則を頒布して高等官以下皆な試驗に因て登用するの制を布かれ門閥緣故の別なく專ら其才能に因つて適宜の位官に昇るとを得るとなれり

斯くの如く賀すべき喜ぶべき時勢となりたれば今より仕官の志願者は各自の智嚢を絞つて試驗に及第するの方法を案出すべし試驗に合格せるときゝ如何なる高位美官と雖とも各自の才能によつて容易に登用せらるゝなり試驗に及第する法にて先つ普通人の口にする所ゝ我が欲する

職官の專門書を學び其意義を解し以て試驗の際其應答に苦まざるとを以て第一の試驗及第法となす故に試驗豫備法等の書皆此法に因らさるなし然しながら如何程專門書を學び專門の業に熟練したりとて直に忘却して永く腦底に記憶し置くにあらもんば設令一時試驗に及第したりとて遠永に其職を奉仕そるを能はもされば寧ろ試驗を受けざるこそ却て得策なれ故に必らも試驗に及第せんとすれば第一着に記憶を養成し然る後專門の學科を脩め專門の事業に熟練して以て其試驗に當るべし必す落第するとなく及第優等にて永久奉仕するとを得て位官益々增進する

と論を待たざるあり今余ハ試驗及第法の大主眼とする記憶力養成法を説て以て大ハ國家に對し小ハ受驗者其人に對し以て其微衷を盡さんと欲す試驗志願者は宜しく此法を實行して後各自志す所の方向に歩を進むべし記憶法とは則ち試驗に及第するの秘法あれ妙訣なれ彼の有名なるナポレチン曾て言へるあり曰く「記憶に乏しき頭腦ハ衞戍を備へざる要塞なり」と予謂へらく眞に格言なりと讀者宜しく此書によつて試驗に落第せざるの衞戍を作るべし

以上述し如く試驗に及第するにハ先づ記憶力を強固ならしめざるべからゝ記憶力を強固ならしむれば必す試驗に

落第するとなしと云ふ然し強ち記憶力を養成するとを是れ思ひ試驗の當日まで爲す所なく只天日を眺むるのみにてハ到底試驗に及第すると難かるべし故に先づ其試驗に當らんとするの學科を怠りなく學習し其理の存する所を極めざるべからゝと雖ども是れは之れ普通の人の知れる所にして新奇の及第法と稱するに足らゝされば此篇にあつては只記憶力の養成法を説て諸氏が試驗に及第する最初の土臺を作らんとす土臺堅固なれば上潰るゝことなし本科熟練法等に至つては宜しく各自の才能に讓るのみ

記臆養成法

●記臆の必要なること

總て事物の覺官に觸し處のもの及び腦底に蓄藏し得たるもの、永久保續して他日實物なきときにも尙ほ能く心頭に現出し得るもの之を名けて記臆と云ふ例へは一度櫻花の爛熳たるを目擊して我が心理に深く印象せしめたる以上は他日其地に到らさるも其爛熳の狀態をして現出せしむると難からじ然れ𪜈記臆𪜈其知覺感覺したる處の事物をして心理に永久保存せしめ時々之を發揚する處の能力なり故に若し知覺感覺せし處の事物を把住すると能𪜈す

して之れを追思するも現出すると能𪜈さるもの𪜈吾人斷して之を記臆と云ふへからさるあり然れとも記臆は天賦の能力にして人々之を備へさるもの𪜈あらじ若し此能力なからしめば感觸せる處の事物の痕跡は直ちに消滅して已れの庭前に何物のありしやをも知ると能はす已れか前日に何事を爲せしやをも知ると能はす前日見たる劇場には何を演したるやをも知ると能𪜈す昨日の天氣は晴なりしか雨なりしかをも知ると能はす甚しきは親屬の名をも忘却し朋友の名をも遺忘するに至らん又之れか爲めに學術技藝の痕跡も消滅すへく道德宗教の進歩も樹立すると

能はさるべし然るに人々此天賦の記憶力を備ふるを以て能く感觸せる處の事物の痕跡を心裡に保存するを得るなり

腦中にハ諸種の能力ありと雖ども此記憶の扶助なくんハ決して完好善美の功を奏すると能ハす故に記憶の能力は實に必要にして且つ卓越の勢力を有すると予の贅辨を待さるなり

記憶ハ人々欠くへからさるものなりと雖ども特に演說者及ひ學者の爲めには其必要を感すると最も大なりとす何となれハ學事に志し有爲の人たらんとを欲するものは預

じめ古今内外の事蹟を記憶して之を參考比較せさるべからさるの必用あればなり

今又教師の生徒に教授するに當りて其學科を能く記憶し置かハ一卷の書籍を挾むとを要せゞ一箇の算盤を携るとを要せゞして其學科を教授するとを得へし生徒にあつても亦其見聞する處のものを能く心裡に保存するの記憶力あれは毎日練習する處の課業も容易に之を脩成するとを得へし故に人々此記憶の能力を擴張せは智識も增進すへく精神も進歩すへし之れに反して記憶の能力なくんハ腦中に他の能力ありと雖ども殆んと無用のものたるに屬す

るを免れさるなり

●記憶力の培養するを得へきと

記憶の腦中諸種の能力を扶助し及び一切の智識を得るに須臾も欠くへからざる者なるか故に勉めて之を培養するの方法を講せざるべからず

然れども古來の學者或は人爲を以て記憶の能力を培養するを得へしとなし或の以て得べからすと爲して既に喋々論辨せりと雖ども其疑問今日に至まで一定せさるもの、如し予は常に人爲擴充の論を主張し嘗て其培養の方法を案出して數年の間之を經驗せしに果して著しく其効を奏

するとを得たり之を徧ねく世人に知らしめ以て國家を益せんとを謀り募るに培養の方法を傳授そるを以てせり當時の學者及び予の朋友の中にも亦先きの疑問を懷るものありて予に就き紀問するもの甚だ多し而して予の方法を得るに及て積年の疑團忽ち渙然として氷釋せさるのなし

然れの古今學者の記憶の培養の得へからさるものとなせしものの實に無稽の論にして而して其培養するを得るものとなせしものも未だ其方法を得さるを以て全く人をして明瞭に了解せしむると能はさりしなり

夫れ記憶は各人によりて厚薄敏鈍の差あると猶各人によ

りて身体に強弱の差あるが如し然れども其方法を得て之れか培養を加るときは薄者進んで厚者となるを得へく鈍者は進んて敏者とあるを得へし其方法を失て放任するときは全く其反對を生ぜるとあり例へは少年のとき強壯のものと雖ども自己の過失に依て壯年の後終に虚弱に至るものあり或は少年のとき虚弱のものと雖ども自己攝生の法に因て漸次強壯に至るものあるが如し之れを要するに能く其方法を設けて之れが培養を得ることを務めさるへからさるものとす故に次きに於て生理上及び心理上を以て其培養の方法を説んと欲するなり

●記臆力を強くせんにハ腦力と全体とを健全ならしむへし

凡そ人間爲す處のことには種々ありて或は全体の力を勞動するものあり或は全体の一部の力を勞動するものあり或ハ精神のみを使用するものあり或は精神と全体とを併せて使用するものあり其他の種類尚ほ多しと雖とも之を要するに全体健全なる時は能く其勞動に耐ゆべく全体或は一部に異狀を生して苦痛を覺ゆるに至るときは其勞動に耐ゆると能ハさるものなり而して記臆ハ元体力との關係を離るゝと能はさるを以て身体健全あるときは記臆も隨

て厚く身体疲勞するときは記憶も亦隨て薄し故に記憶力をして強からしめんと欲すれゝ必す先つ全体をして健全あらしむるに在りとす

全体をして健全ならしむるには就中腦力を健全ならしむるを最とす如何となれば記憶は吾人の腦底に感觸する處の事物を保存するものにして吾人の腦底に感觸せざる處の事物は決して保存すること能はさるを以てなり故に記憶の腦力に關すること最も大なるを以て吾人は宜しく腦に滋養を與へて益々強壯ならしむることを務めさるへからす腦力の健全を保するには常に勞動をなしたる後快く睡眠を

遂け以て之れが疲勞を休息せしむへし若し睡眠を廢して累日連夜過激の勞動をなすときゝ腦方次第に疲勞して之か爲に疾病を釀し若くは癡痴となるとあり此ときに至て記憶も全く消滅して其痕跡を止めさるに至るへし故に吾人ゝ夜ゝ適宜の時間を計りて睡眠を遂け朝ゝ早く寢所を離れ多少の休息をなしたる後各自の職業に從事するを宜とすべし

体力腦力の最も強壯なるゝ睡眠を遂けたる後にして即ち晨起後にありとす太陽の既に出するに及てゝ体力腦力共に漸次に衰退するを以て午前に比較すれば勞多くして功

少し日暮より夜分に至りては体力脳力共に既に疲勞するを以て此時間には只慣れたる事業を爲すの外は恐く脳髄の荷擔を弛ふるを可なりとす又世間時としては之に反して午前は脳力不活潑にして午後は却て活潑なるものあるへしと雖ども是れ等は十中の一二、百中の七八にして決して尋常のことにはあらず此れ夜は深更に寢ね朝は晨起するの習慣に因て然るか或は其他の原因によるものなれは常例を以て概論すべからざるあり過度の飲酒又は飽食をなすときは精神朦朧として脳力減衰し之れが爲めに記憶力を減からしむるの基を招くあり故に何事も適度に用ゐて

自己の任に堪へざるとを行ふべからず總て記憶は脳力の關係を有すると極めて大なるを以て記憶を培養するは先づ脳力をして強壯ならしむるにあり脳力既に強壯なれば記憶も亦隨て強壯なることを得へきなり

● 心神をして爽快ならしむること

脳力と体力とを交々使用するは最上の策なれども又脳力をのみ使用する中に就く彼此交へ用ゆるも亦更に心をして爽快ならしむるものなり例へは地理書を讀むと一時間にて倦めは換へて算術を勉む算術を務むと一時間にて倦めは換へて歴史を讀む此の如くするときは終日倦厭を生す

るとなく且つ心氣も自から爽快なるを覺ゆるなり

●記憶ハ過度あるべからゞ

凡て人間行ふ處の事物に程度あり若し其程度を過すときは必す其禍害を招かさるものはあらじ記憶に於ても亦各人に因て程度あり若し強て過當の記憶をなさんと欲する時は必す他の能力を妨害するか或は腦中の活動を急激にするか或は腦力を減少する等の諸害を招くと必然なりとす然れとも能く其方法を用ひて適度に記憶すれは斯の如き禍害を避くることを得へし

●注意の闕くべからさるを

注意は事物を施すに必要なるものにして特に記憶に於て須臾も缺くべからさる處のものなり若し注意なきときは記憶の目的擾亂して終に腦底に把住することを得さるなり注意とは首として意思を一物上に存留し自餘のものを棄置して総て心の他の發動を停歇する處の勢力なり故に注意の切要ハ吾人自己心意の發動を控御して目下須要なる所の方偶へ自在に之を向け之れが爲めに凡て自餘の支離なる雜念を塞き而して心力を一にし目前なる思慮の目的に歸注するにあり若し心諸種の目的に擾亂せらるゝときハ一物も明亮確實に理會し得ると能はさるなり故に人の

意思は全一時に於て夥多の事物に注意すると能わさるものにして必す一事物にのみ注意するを得るものなり然れども同時に夥多の事物に注意するを得るが加く見もるものは是れ心ろの一物より他の一物に移るの疾速なるが爲めにして決して同時に多物に注意するにはあらさるなり例へハ眼睛の向ふ直線は其外界の一物体の一体にあり然れとも其眼睛一點より他の一點に轉過して全面を一目に知覺するか如く只注意の轉移速かなるが爲めなり

故に事物を記憶するには自的の一方に注意を傾け能く把住し得て然る後に他物に移るへし今書を讀むときに當て

注意を欠くときは其目ハ徒らに紙數を閲過するも書中記する處の説に就て一も心に興起する處なし然れとも今著實精密に注意するときハ語々能く之れを了解し一の意見毎に之れを思量して記憶するとを得るなり

● 辨別力の必要なるこ

辨別力の强壯にして其割りに記憶力の强壯ならさるものあり然れとも辨別すると能はさるものには事物を記憶せんめんにハ甚た難し如何となれは事物の覺感に觸る者を辨別して後ちに記憶する者なれはなり例へは今日日中炎熱の甚だしきを以て自から出で、綠陰に停立し涼風に梳

るときは其快樂殆んど言ふべからざる斯の如きときに當て能く其炎熱と涼風とを判然辨別するを以て之れを記憶し得れども若し事物に感せざるものなるときハ其炎熱の堪へ難きハ涼風の清爽たるとを辨別すると能はさるを以て必す之れを記憶し得るとあらさるなり故に記憶を培養するには先つ此辨別力を練て之れを增長迅速ならしむるの方法を發見すると勉すはあるべからす

●想像力の必要なること

想像力も亦再現力の一種なれども單純なる記憶力とハ別にして過去の事物を以て自己の思想に由て之れを結合したるものなり故に其再現したる基本は前時嘗て我知覺感覺したるものに外あらすと雖とも其心上に現ハるゝものは現實に之れを知覺したるものに外あらすと雖とも其心上に現はるゝものは現實に之れを知覺したるものには非ちすして其の心の自己に創造したるものあり故に想像力とハ自己の嘗て見聞せし處の諸物体を結合し一の新物体を創造して自己身上に現出せしむる所の勢力なり例へハ茲に一の怪異なる動物の圖繪ありて其畫く所のものは世の動物の有せさる奇怪なる角を生し又其耳目鼻口より手足爪牙に至るまで悉く世の未た曾て見さる所の怪獸なり

之れ卽ち其畫工の創造力を以て畫きたるものにして決して眞に此物あるにあらざるなり

然れは想像力は已れの欲する處のものゝ何にても之れを創造するを得へし例へゝ雲上の家屋或は純金の山岳等の如く實際に於て曾てなき所のものと雖ども雲上、家屋、純金山岳等は凡て已れの知る所のものなるを以て之を結合すれゝ全く世上になきものも自在に創造して心頭に現出せしむることを得べし

凡て經驗多きものは想像力に富み經驗少きものは想像力に乏しと雖ども世間或は博學多才の人にして想像力に乏しく或は淺學無識の人にして想像力に富めるもの往々にしてあり然れども此想像力を鍛錬するにゝ他人の創造したる所のものを見聞し我が想像力を以て屢々習用するときは自から此勢力の開發すること疑を容れざるなり此能力に依て生する所の裨益ゝ實に大なるものなれども又想像に就ての過失誤用臆斷欺罔等は決してなしと云ふべからす故に想像力を養成するに際しては必すしも過激に情を動かす處のものを擯斥し詩文等より來るものを退け專ら歷史上より來るもの及び未だ經驗せざる所の景色事變等を念頭に生せしむる如き尤も完全明晰なる想像をのみ

勸奬するを可なりとす想像力の記憶に關係すると例へは歴史を讀て古代の治亂興廢を知らんと欲すと雖とも既に之れを實地に見ると能はざるを以て唯々書中文章の徵する意義を思考し此時代は此の如し彼の戰鬪は斯の如しと想像力を以て理會し而して後記憶すべきなり又吾人未だ曾て見さる處の外國地誌を讀で其都府山川風俗等を思想するには必す多少の想像力に由らそば其景況を理會するとなし理會するとあければ之を記憶すると能はざるなり又詩文演術及ひ圖畫彫刻等を見るものに於ても亦此想像力なかるへからす若し想像力なきものは其詩文圖畫の旨

趣を辨知すると能はす辨知すると能はされば必す之を記憶すると能はす故に想像力は記憶に關係して必要なるものなりとす

●心上に再現するの理法

凡て記憶したる事物と常に心上に現出しあるに非そして之を喚起するものあるときに至て之れが爲めに提起せらるゝものなり而して其之を提起する處のものは直接あるものあり或は間接に相連絡するものあり凡て此提起することは一般の理法に循ふものにして之れを作生の理法と名づくるなり提起に先だつものゝ或ゝ感覺たり或は知覺

たり或は理會たり或い情緒たり此中一の起るときに於て必ず一の連絡ありて先だちたるものより後なるものを提起して生せしむるものなり凡て吾人の心上再現の使て成る所以は此提起伴生の理法に基かさるはなし而して此提起伴生に諸種の區別あり今之を擧て左に示さん

(第一)一物を見るに當て吾嘗て其物と連絡したる履歴上の事件を思ひ起すことあり例へば吾が小兒たりしとき愛玩したるものを見るときい其小兒たりしとき遊嬉せ一處の狀況を思ひ起すが如し

(第二)事物の名稱を呼ぶに因て其形体の如何を提起す又書中の語句を聞くに就て其徵する處の意義を提起するとあり例へば今机案と呼ぶものあれば吾人は必ず机案の形体を提起すべし又節儉經濟ある語句を聞かば必す其徵する處の意義を提起すべきが如し

(第三)一物を見るに當て之と能く似たる他の一物を提起するとあり例へば茲に一の山岳あり其形体頗る富岳に似たるとあるときい之れが爲めに富岳を提起するとあるが如き是れなり

(第四)一物を見るに當て之れは全く相反するものを提起するとあり例へは巨人を見て侏儒を提起し堅牢なる物を見

て柔脆なる物を提起するが如し

（第五）時と處と相連絡して提起することあり例へば博物館に於て武田信玄の携帶したる武具ありとせよ之れを見るものは必らず其携持せし年代及び其割據せし郡國を提起する、ことあるべし又漢土後漢の古鼎ありとせよ之を見るものも亦必す其年代と土地とを合せて提起することあるが如し

（第六）因緣よりして應効を提起し應効よりして因緣を提起することあり例へば一人の職工あり刀劍を鍛錬するに當て誤て疵を蒙りしことあり爾來其疵を見ては乃ち刀劍を

提起し又刀劍を見ては乃ち之れが爲めに疵を蒙りしことを提起するが如し此提起伴生の理法ハ獨り見るべき物体のみに限るにあらすして他の官具も亦此理法に從ふものあり故に音ハ類似の音を提起し或ハ之れを前時曾て知覺したるときに於て伴ひたるものゝ理會を提起す例へば今吾人一室に在て他室に掛る所の時計の音響のみを聞けり然れば吾が知覺する所ハ音響のみなれども此音響よりして時計を理會するに前時嘗て時計を見しとき其音響を聞きたることあるよりして吾心上に再現するなり又香ハ類似の香を提起し或は前時知覺したるときよ於て伴ひたる

物の理會を提起することわり例へば今一室に於ひて香を嗅ぐに當て其前時當て某所に於て香を嗅ぎしときに伴ひたる事件を提起するが如し又味ハ類似の味を提起し或は之れを前時嘗て知覺したるときに於て伴ひたる物の理會を提起するも亦全一理なり

先哲嘗て提起の理法を擧げて四となせり即ち次の如し曰ハく相似たるもの曰く相反するもの曰く時と處との連絡曰く因縁と應効是れなり此切要なる提起の理法の存するは固より疑ふへからすして意思の一定なる目的あれハ必も提起するものは此四つのものたる呀を容れさる所なり

然りと雖ども之れを約して一元理となせば次に擧くる處に過きさるなり曰く凡て伴生の理法と心裡に提起するものと提起せらるゝものと預しめ相連絡して存するものなり故に其一の理會ハ必す他の理會を喚起する所以のものハ一時曾て心裏に相連絡して現はれたるに因るものなり

と

●疾病或ハ老耄に因て記憶の衰ふること

疾病或ハ老耄に因て記憶の勢力漸次に減衰するとあり曾て腦底に蓄藏したる處の緊要のことのみならす日用の常語事物たに悉く之を遺忘することあり然れども少年のと

きに在て感覺知覺したる處のものゝ仮令衰病老耄に至ると雖ども敢て之を遺忘することなきが故に其連絡したる處のものを知り若くは人の其連絡したる所のものゝ名を呼ふに因て能く其の事物言語を追懐することあり

●養生の必要なる事

養生法は記憶養成に就て尤も必用法なり故に是を五條に分ちて説く所あり(一)衣服(二)住居(三)運動(四)感冒の事(五)冷水及び食鹽ゝ養生に大功ある事

(一)衣服

衣服ゝ衛生上尤も注意すべき要点なれば人新たに衣服を製せんとする時ゝ濕氣を吸収せゞ或は濕氣を貯蓄せゞ清潔の空氣を含むこと多くして体温を体外に散逸せゞるの質ある毛布の類を以て造るべし

絹布麻布等ゝ濕氣を吸收し人体の電氣を攪擾し易きものあれば決して襯衣とすべからず

襯衣ゝ常に之を洗濯すべし何となれば皮膚にある氣孔より排泄する所の不潔物即ち汗垢の類は皆此の襯衣の爲めに閉ぢられて外部へ散逸すること能はざるを以て大に身体に冷氣を増し人身の健康を害するものなれば能く注意し晝間着用したるものゝ夜間は着用せざる様にすべし

右の如く皮膚の氣孔より排泄する汚垢物を除去せざれば氣孔を閉塞するを以て体内にある汚垢物外部に排泄する能はざ隨つて体内に圖らざる大害を釀すものなれば一週間に少なくも三四度暑中は毎日必ず浴湯して氣孔を閉塞する所の汚垢物を去るべきなり而して帶は堅くべからず

(二)住居

住居ハ空氣流通の能く高爽なる地を撰むべし家の周圍に久しく水の替らざる古池小溝等あるて臭氣を發し或は塵溜等ある所には決して住むべからず近傍にハ常に蒼々たる綠樹を植へ又垣壁には青土を宜しとす是れ何人にても炎天に白色の壁を見るより綠樹の下にあれば自から精神爽快を覺ゆるの理にて殊に白壁の如きは光澤を有するを以て人目を眩せしめ忽ち頭痛を感する如き恐れあれば白壁は務めて忌むべく青色の物のみを用ゆべし

稠密なる都會の如き地を避けて兎角高爽なる地に住むべし然らざれハ氣力も薄く精神も劣り流行病も早く傳染し易し是れ人家稠密する地は何となく腐敗氣多く炭酸氣多ければなり又井水の如きも注意して清水の出る地を撰むべし

(三)運動

人は適度に運動すべし譬へ消化物を食し空氣の流通能く高爽なる地に住むとも終日一室よりて書見に日を移し或は平生懶惰にして何の事業も起すことなく終日晝寢に日を送り偶ま起くるときハ大食する如き人は血液の循環惡しく遂に溜飲神經病胃病等に罹り短命の基を開くべし是れ予が人は適度に運動すべーと謂ふ所以なり偖今其運動の方法を說くに當り細かに言へば限りなしと雖ども簡短に言へは左の如し

一朝ハ清潔の空氣のみにて不潔の空氣少しもなき時あれば人たるものは必ず早く起き野外に散歩し清潔の空氣を呼吸すべし

一晝間或は食後は決して眠るべからず人ハ夜の十時より明後五時頃まで眠りて足れりとす總て眠りたる時ハ血液の運行鈍く食物の消化すること遲ければ食後は必ず眠るべからず又食事の前後一時間宛は甚だ体の疲れる程運動するも宜しからず

一運動には散歩を宜しとすれども餘り遠く行くべからず又歩むには必ず杖鞭などを手に持ちて振りながら歩むべし是れ手も足も全体全時に動かして甚だ運動の適度

を得るものとす浴湯体操の如きも此理によりて宜しきものなり

（四）感冒の事

感冒とは皮膚の虚弱及び不潔より起る病にして俗に風邪と稱する如き即ち感冒症にして世人は皆此感冒症は至て輕き者の如く思ひ輕々に附し顧みざるものあり過てりと謂つべし蓋し諸般の病は此感冒を以て源となすものなれば人一度過つて此感冒に罹るときは早く名醫に附て治法に注意すべし尤も容易なる豫防法い次の冷水法にして常に其法を行へば感冒に罹ることなし

（五）冷水及び食鹽は養生に大功ある事

凡そ人にして物を忘れざらんと欲すれば記憶力を養生せざる可らず記憶力を養生するには精神を快爽ならしめざるべからず精神を快爽ならしむるにい養生法を講せざる可らざるとは余が今まで説き來り讀者も畧ば知らるゝ處なるが今又養生法の中最も必用なる冷水養生法を左に述べて讀者に實行を勸む

偖て冷水養生法とい人身の全体に冷水を灌ぐの謂あり人常に左に記する如き方を以て實行せば身体を強壯ならしめ精神を爽快活潑ならしむるの大効ありて記憶力を養成

すること亦大に功あるものなり

一人毎朝褥を離るれば直に顔を洗ひ然る後ち前に說きたる如く清潔の空氣を吸收するなるべし此時手拭を清水に浸し輕く絞り全体の皮膚を能く摩擦し然る後ち乾きたる手拭を以て能く拭ふべし此法ハ朝間に限らず夜間褥に就く頃と晝飯後には必ず此法を行ふべし尤も今述べし所は五六才若くは八九歳以下の少年に用ゆる所にして大人は裸體となりて頭上より冷水を灌ぐべし然れども始めの際は大人小人を問はず微温湯より始め漸次冷水に及ぼすべし

一又清水二升計に食鹽五匁を加へ前の如く施用すれば海水浴と同理にて大功あるものなり而し記憶を養成せんとする人にして此法を行はんとすれば他の法實行の餘に此鹽水法を行ふて可なり行ハざらんとすれは其れにて可なり記憶を養成するには冷水法丈けにて別に差閊なし

一此冷水法を行へハ皮膚を清潔にし外邪を拒ぐ故に感冒に罹ること少なく常に寒冷に慣るゝを以て嚴冬に至つて少なも炬燵火鉢等を要することなく沸着にて寒からず寒風積雪を怯れず外出するの勇氣を起さしめ常に精神

を爽快ならしむるを以て奮發力を起し記臆力を養成するには尤も宜しき方法なり。

一此法を適度に行へば終身無病にて一家族愉快に生活するとを得べし

一學生諸氏にして非常に讀書に勉強して衛生を顧みざる如きものあり斯る人書見の際直に頭痛を感し文字不分明となりて遂に一種の病根となり後來の目的を失するものあり此人冷此水法を平生行へば決して斯くの如きことなく大に何書にも通渉して忘れざることを得べし

一冷水の度は其人の強弱により酌酌すべし

一一回の實行時間(但し水を灌ぐ時間多くも二三分時に過ぐべからず)始めの際は十四五秒にて足れり

養生法には右六條を以て述べし如く少しの費用も要せず又餘り時間も掛らずして良結果を得身神を爽快ならしむるものあれば世の學生諸氏に宜しく此法を守り精神を活潑ならしめ大に奮發力を起し記臆力を養生し各志す所の事業を研究し其目的を達し國家大鴻益を與ふるあらん余の本望是れより大なるはなし

終に望み一言す此法實行中に酒と房事は適度なれば論なしと雖も度を過すときは大害となり折角此法の功能を失

することなきにしもあらざれば注意すべし々々

●藥法

一方名(記憶妙劑)壯士丸

一壹劑の量

一鹼酸規尼涅　〇、二　一還元鉄　〇、二

一康桂皮末　〇、二　一橙皮末　〇、二

一甘草本　一、三

以上五味調合蒲公英エキスを以て中丸となし三包に分ち大人一日量とし十五歳以下五歳までハ其半量五歳以

下二歳までは三分一乳兒は其母之を服す何れも一日三回清水を以て分服するものとす

一主治効能

筋力作業者腦力作業者則宇内吾人の常に座有服用せば甲ハ筋力を増し乙は腦力を増保して精神活潑となり時事を能く記憶し腕力衆に秀て國家をして富強の安きに在らしむることを試用して以て其奇効あるを速知するの良藥なり

試驗及第法終

明治廿二年十二月十三日印刷
仝　年仝月十四日出版

實價金五拾錢

著述者　岡山縣平民　黑田惠一郎
大阪市東區南新町一丁目十六番屋敷

發行者　岡山縣平民　河野伊四郎
大阪市東區南新町一丁目六番地

印刷者　（日進堂）喜田甚太郎
大阪市東區平野町四丁目九十一番屋敷

大阪　鳳文社發賣書目

●此書の奏効の確實なるを以て第二版を發行するの光榮を得たり

青江琢軒先生祕法　甲本千之君編述

學術技藝　志ぬるまで　とこそ　思へ　ども

一見拾圓　絶倫奇術

定價金壹圓特別半額　金五拾錢　郵稅八錢にて發賣仕り候

先きに千部を限り印刷に附し發賣せし終身不忘之奇術第一第二版の大に世上の御高評を蒙りいまだ申込み期限の來らざる内に滿員となるの光榮を得たり是れ全く讀者の御引立に依ると雖も亦此書の記事確實にして世の記憶力に乏しき人を利すること多きに非ざれば何ぞ能く茲に至らん其後送金の上送本を迫らるゝの人續々ありと雖ども如何せん已に滿員後にて其需めに應ずゝを得ざ讀者の欠望實に見るに忍びざるを以て今般更に五千部を限り**增補訂正**を加へ製本等にも充分意を注ぎ代價を引下げ**第二版**出版落成致候間御入用なる内に代價郵稅共至急御送金あれ早速御送本可申候

抑も此書は先に廣告せし如く琢軒青江先生が嘗て大阪陸軍病院へ奉職中より種々實驗して其良結果を得たる一大奇術を甲本君が何人にも分り易く簡明に著わされたる者にて人一度此書を繙て其法を實行せば大に智力精神を勇壯活潑ならしめ一旦他人

より聞き或は見覺へたることゝ終身忘るゝことなきは勿論學生諸氏にして此法を知る時は日々師に就て得る處の讀書講義演說又は當時世上に現出する稗史小說雜誌の如き幾百の數を知らざるも一讀直に覺へ寶書にして近頃の出版○○○○○の如き讀書百篇意得て更に忘るゝことなく實に得難き味自ら通ぜと云ふ如き通常人の知り得たることを書き並へ、藥力、奇法記憶法を排擊する者の如き雜書と同異なれば大方の購求諸君玉瓦同視する勿れ

巻末に藥力奇法記憶法秘術と稱へ藥の力を以て人生の記憶力を養成し精神を快爽ならしめ諸種の病根を絶ち生涯疾病に罹ることなく百般の事物一度耳目に觸れゝ決て遺忘することなき奇法をも掲げたり

東京 華族女學校學監正六位下田歌子女史題辭
大阪女子手藝會 桐井愛子女史著

女子手藝 和繪教授法 完

實價 金五拾錢 郵稅 拾貳錢

東洋の日本ゝ美術國なり東洋の日本人は美術心に富めり東洋の日本人は美術士なりとは之れ西洋各國人の公評する處なり今や我國の美術ゝ歐米各國人の嗜好に適し日本美術の名聲海外に博せり此に於て乎日本政府に於ても特に美術品を取調べ大に其實物を集めらるゝの際我國美術品とも稱せられ古來より世に傳わりたる女子手藝押繪の如きゝ中世殆と廢滅に帰し絶て顧みるものなかりしに先年畏れ多くも皇后陛下京都へ御幸啓ある砌大に御賞勵あらせられたるやに仄に承れり茲に今般弊社に上梓せ一愛子女史の著作せられたる押繪教授書ゝ吾國古今の押繪雛形を網羅し且懇切なる方法を示されたる良書なれば苟も日本婦人たるものは貴顯淑女令孃を問はず何人と雖も女子の手藝に志す君たちは乞ふ一本を購求し坐邊に供へられんことを伏て希望す

第三版

近時一大奇書發行廣告

內務省版權御免許

新奇發明 實地經驗 **男女必用有益秘傳**

本書は昨年二月初めて有志諸君の希望により三千部限傳授料不申受出版配當せし處全國一百有余種新聞雜誌の賞賛を得非常の御高評を蒙り上ゝ宮內省御女官より華族紳士淑女令孃より御注文殺御付意外の配當高に相成日ならずして滿員の後は全國有志諸君より日々御送金の上配當之義申迫ぜられ貴に諸君の御厚意辭するに忍びざるを以て爰

桐箱入 上等仕立 既刻

に第二版五千部を出版配當せし處我地朝日新聞一回の廣告にて再び滿員となるの光榮と名譽を辱ふせり

依て今般右御禮とゝして第三版壹萬部限り

（三版落成）舊の如く傳授料不申受特別則ち金八拾錢郵税金八錢にて今回限り配當仕候間本書希望の諸君い勿論有無御問合の諸君は滿員となり品切れと相成らぬ内又と再び斯る珍書の世に出ざるを以て至急御送金相成度着金次第即時御配當可申候

金壹圓の二割引（本日より六十日間）

目錄の大要

顔の色を白くする法

かくつやを出して玉の如くあらしむる法○色を白くしつやを出すくしさめ肌を直す法○色を白くし肌をこまし白くし顔のしわをのばす法

青き顔を櫻色にする法

額の上りたるを短く見する法○鼻の低きを高く見する法○目尻の低れ下りたるを上げ又上りたるをますぐに見する法○眼の大なるを小く見する法○眼の小きを常の如く見する法○眼の太きを細く見する法○首筋の長きを短く見する法○首筋の短きを長く見する法○眉と目の間狹きを廣く見する法○脊の高きを低く見する法○肩のいかりたるを撫肩にする法○出尻をかくす法○猫背を直す法○鳩胸を直す法○衣類の惡臭を去る法

毛をはやす法

○男女髮のはへぎわ○眉毛○口ひけ○火傷のあと○できもの、あと○男女常に毛の薄きもの○すべて毛のはやしべき所に毛を生ぜる必生法○髮はへ藥の法

白髮をぬき黑毛を生ず法

○髮を黑くし光澤を出す法○髮を黑くし一生白髮はへることなき法○若白髮を直す法○頭髮の縮を直す法○にら髮を美しき髮にする法○髮のふけを去る法○髮を洗ふ法

わきがを直す法

○男女如何なる臭き腋がにても容易に直り再發せざる法○わきがの内こうじたるを直す法

口の臭きを直す法

○虫喰ひ齒を直す法○齒のいたみを直す法○口熱を去る法○口の狹きを廣く見する法○口の廣きを狹く見する法○口唇の厚きを薄く見する法○口を廣く見する法○耳の霜やけを直す法○たむしを直す法○耳なりを直す法○顔に生ぜる瘡を直す法○耳だれを直す法○黑き顔に化粧する法○顔に生ぜるにきびを直す法○そばかすを去る法○ほくろをぬく法○いぼを去る法○あばたを直す法○あざを直す法○顔のしわをのばす法○びゝあかぎれを直す法○身に汗の出づるを止むる法○婦人こしけを直す法

〔注意〕本書は前に述ぶる如く非常の御高評を蒙り候處忽ち猿の人似するが如き或い題字或は肖像抔とさも大層らしく廣告し世人の買心を求むるものあり是れ本書の隆盛を奇貨とする投機者の業なれば大方諸君御注意ありて投機のわなに掛り玉ふ勿れ

春の屋主人序城南好夢情史著

男女秘訣

洋裝全一冊
特別減價
冊五錢
郵税八錢

本書は苟も造物神より生を稟け万物の靈たる人間より禽獸蟲魚の類に至るまで之れを行ひ之を務め子孫を設け生涯無上の快樂を得て人生の始終を詳にし子孫繁榮を致すの

一大義務たる交合の要を論じ終生快樂の秘訣を夢好情史か何人にも分り易く讀み易く著せられ其卷末には種々の妙法奇術を加へたる完全無欠の良書なれば江湖諸君此書を繙ひて造化無量の恩惠に報ひ夫婦和合の歡樂と子孫繁昌の幸福とを永久に受け給まはんことを切に望む所なり

（目錄）色事は世界萬物の基●色事を爲すは人間の務●色事の話●男子生殖器の話●女子生殖器の話●交合の行ひ方の法●漫に交合す可らざる話●色事を爲す時の心得●房事をなす處と相手の心得●色事に志す人常の心得●男女の陰具能く適合する法●女子より男子に愛戀する法●男女交合の適否により利害苦樂を異にする法●女子の快樂い男子より多き法●愛情の心を以て交合する時〻許多の快樂を得る法●相手が我に應ぜるの可否を知る法●我思ふ人に嫌いれぬ秘訣●穴のはなし

美女に好まるゝ秘訣●男子に好まるゝ秘訣●交合の際女子を泣かしむる法●愛戀する人にい陰具萎縮する法●妙な處の妙な話●すきの人にふられぬ秘法●後家に好まるゝ法●我が思ふ戀を仕遂ぐる法●初めての人に逢ふ時の心得●三會の時

始めての人に贈る艶書の書樣●男より女に贈る艶書の書樣●ふみの封じ樣心得●婦人に用ゆる字綴●藝妓に好まるゝ法●嬖喉猥の心得●娼妓に好まるゝ法●我を慰いれたる夢占ひの法●妾宅の奇談●閨中の戲話●閨房の秘訣●美人と咄の出來る新法●男女交合の後ち陰具を能く拭淨する法

男女他聞を憚る內談密話を英語にて話す法●男女相性早見●婚姻の大意●緣組の心得●相見の心得●興入の事色直しの事●嫁の部屋床の取樣●部屋歪の事●部屋見舞の事●新婚の夫婦に忠告●夫婦の交接●夫婦の交際法●にはひ袋製法

●色を白くする藥の法●男女かくし化粧の法●西洋化粧の法●髮の生へざわ又い眉毛陰毛を生づる藥の法●腋臭を去る藥の法●口中の臭を去る藥の法●にきびそばかすを去る藥の法●顏のあれを直す藥の法●子はらみ藥の法●淋病治法●消渴の治法●梅毒豫防法

新染液發明河野氏著

增補 第一版 正訂

本國名物 簡便實益 日本澤潔法秘錄

●洋裝全一冊●定價貳圓●特別減價七拾錢●郵稅八錢

本書い氏が染業に從事し千辛万苦の末遂に多年の經驗と實地に就き案出したる發明を經述せられしを乞ひ一昨明治二十年小店初めて出版發賣仕候處幸に江湖諸君の喝采を博し第一版五千部は僅數月間にして賣盡し久しく欲本に相成居候處今般染業上最も有益の方法を更に增補し第二版出版發賣仕候間御入用の諸君は速に御注文願上候

（目錄）紺色染液製造法●紺色染木方花色●淺黃●藤色●銀鼠●藍鐵●藤鐵●藍鼠●蒲黃●千草色●葡萄鼠●茶色●白茶●金茶●丁子茶●濃茶●鶯茶●小豆

●茶●蝦茶●華茶●黄色其他數色●紅木綿染別法●諸色●法等

緋粉染液製造法●紺色染方●色止法

●栗皮茶●紅梅●桃色●トキ色●肉色●柿色●黒色染法●紫色染法●植物質黄色別法●黒色別法●紫色別法●青色

藍ノ本色三十六種（譬ハ瑠璃紺花色淺黄水色空色等の類）之ヨリ生ズル（變化色抱合色）數十種

赤ノ本色二百種（譬は猩々緋鴇色桃色紅梅等の類）之ヨリ生ズル（變化色抱合色）數十種

綠ノ本色十二種（譬は青竹鶸のぞき色等の類）之ヨリ生ズル（變化色抱合色）數十種

茶ノ本色十二種（譬は焦茶薄茶等の類）之ヨリ生ズル（變化色抱合色）數十種

黄ノ本色六種（譬は鬱金色玉子色等の類）之ヨリ生ズル（變化色抱合色）數十種

紫ノ本色八種（譬は濃紫薄紫等の類）之ヨリ生ズル（變化色抱合色）數十種

樺ノ本色六種（譬は橙色等の類）之ヨリ生ズル（變化色抱合色）數十種

●木綿藍抜法●木綿漂白法●星抜法●色抜法●生糸艶出法●木綿晒法●古綿晒法●麻晒法●獸毛晒法●羊毛晒法●毛織晒法●紺地白文字抜法●紺地印紋抜法●毛氈白文字印紋抜法●手洗水製造法●固着糊法

以上

右の諸法の藥品の調合手加減の一より自由自在に實物染揚げらる、●新奇妙法にして自ら實地に試みるを以て經驗するときは漸次熟練し●完全無欠の色澤を顯し●純良鮮美の染法となる●藥品は各地の藥舖にあり●染具は些少の器にて充分なり●實に簡便にして實益ある●

萬國無双の良法なると確證す

天下無比 文學之利器速寫之秘術發行廣告

日光作用 簡便復寫法書

正價金壹圓郵税八錢
●詳密圖入器械圖入●美麗鮮明見本付●
送金ハ小爲替又ハ通運早速便●手切一割増

此簡便復寫法ハ石井清貫氏多年日光ヲ利用シ其作用ニ依テ簡便ナル復寫法ヲ發明シ之レヲ實驗スルニ頗ル良結果ヲ奏シ其方法甚ダ簡ニメ悉シ其費用僅小ニシテ足リ一日一人ノ力ヲ以テ數日數十人ノ爲ス處ノ筆工ニ換ユルコトヲ得ルノミナラス活版石版又ハ鉄寫器蒟蒻版等ニ優リ如何ナル圖畵寫眞レッテル商標細密書類ト雖モ鮮明ニ寫スコトヲ得決シテ變造贋造ノ憂ナク秘密ノ書類ノ如キ之レニ依テ謄寫スル片ハ他ニ漏洩ノ患ナク迅速ニシテ更ニ誤謬ヲ生スルコトナキ古今無比ノ一大簡便良法ナレハ當時繁文省畧ヲ主トスル諸官員ハ勿論裁判所警察署郡區市役所町村役所學校銀行諸會社諸商店及學生諸君ハ寫本又ハ演説講義録等謄寫或ハ各自名刺引札等ヲ製スルニモ至テ簡便ニシテ便利有益ノ方法ナリ

大阪 數學專門學會藏版 甲本精一君著

新式速成一九算

算術ノ道難シト謂ツ可シ矣蓋シ洋算ニ違算ナシト雖ヒ施術甚ダ鈍クノ當時早匁ヲ要スルノ商法家諸官衙會社等ニハ適シ難ク和算少シク輕便ナリト雖ヒ一顆ヲ誤レバ幾百万ノ相違ヲ生ズ實ニ不完全ト言フモ敢テ過稱ニ非ザル也本書ハ著者ガ多年ノ經驗ト高尚ナル學識トヲ以テ發明セラレタル古今無比ノ速算新法ニシテ運算中寸毫ノ誤謬ヲ生ズルヿナキ一大寶書ナリ

評 本書ノ主旨要点ヲ概言スレバ著者ノ注意懇篤解譯極テ丁寧反覆加ルニ詳細ナル圖式ヲ示シ純正九々ノ呼聲ニ限リ煩シキ餘言ヲ止メ胸中ニ預カル等ノ憂ナク五桁加倍ノ算盤ヲ要セズ手術簡短ニノ學童婦女子ト雖ヒ一目了解スベク之ヲ例レバ舊見一ノ

西洋綴美本全一冊舶來洋紙摺黑皮表紙縱六寸二分横四寸三分

●正價金壹圓ノ處今般出版發賣ノ祝賀トシテ特別減價五割引

即チ **金五拾錢**

郵稅 拾錢 ニテ今日ヨリ向三十日間發賣ス

●送金ハ郵便小爲替〈拂渡局大阪郵便局一又ハ郵券代用一割增ニテ御需ニ應ズ

百目十六割ノ如キ九聲ヲ要セザレバ容易ニ除スル能ハザルモ此算法ニテハ僅ニ**三聲**ヲ以テ除シ得ルノミ小ヲ論ゼズ瞬間ニ其答ヲ得ルヿ自由自在ニシテ其効用偉且ツ大ナリ今其類例ハ枚擧ニ遑アラザルヲ以テ爰ニ之ヲ畧ス讀者一ヲ見テ十ヲ知テレヨ且此算法ハ自宅ニ於テ獨習シ得ル良書ナレバ苟クモ算法ニ志アル諸氏ハ一本ヲ購フテ御實驗アレ

僅力一週間內二卒業

二十時間

前兆晴曇風雨警報器

新奇發明

光映晴雨計

發賣

美製上等 小形金二十錢

仝 大形金三十錢

使用說明書付着金次第遞送す

觀測法〈青藍色 晴天 ●淡青色 天氣かわり ●鼠色 雨氣 ●桃鼠色 曇天〉〈薄桃色 雨天 ●白色 大風雨 ●雪は雨に同じ〉

●光映晴雨計觀測法は萱野良輔氏の新發明に係れる眞に全世界無比輕便の品にて其築遠く海外に博せり今其觀測の要は柱に掛け帽子に夾又は懷中に携帶し表面の花紋の中に貼する絹器凡て氣候變遷する毎に必ず空氣中温素水素の增減するに感觸して忽然一種の最も奇怪なる變映活働力を喚起し右六種の變色を呈し以て二十時間前に必ず晴曇風雨の前兆を豫報する輕便なる測候器なれば航海者養蠶家農家又は旅行者抔は殊に便

利也乞ふ四方諸君陸續御購求願上候

○久保龍山翁著

婚姻定法 男女相性傳

洋裝美本全一冊●定價金五拾錢
特別減價金二拾錢
郵税八錢●紙數百五十ページ

本書は久保龍山翁婚姻は天地陰陽和合の理に基き人事の一大貴重の義務にして男女の最も愼み行ふべきものなれば苟も輕々疎漏に付す可からざるなり故に翁は積年の經歷と實驗上配偶の適否により大に本人の不幸善惡吉凶あるを憂ひ概めこれを忌み去れを擇ぶの良法を究理し今爰に著せられたれば未婚の息子令孃は勿論江湖の男女諸君此書を繙き不吉の配偶を未前に防ぎ幸福の良緣を需められよ

（書中目錄）

婚姻の大意●自由結婚●男女相性吉凶●男女相性早見●縁組の心得●相見の心得●婚禮の吉凶日●結納取遣吉凶日●輿入の吉凶●嫁の部屋床の取樣●部屋盃の事●部屋見舞の事●人相秘傳●相見心得の秘訣●手相の秘傳●生日の吉凶●生月の善惡●生時の可否●生年の吉凶●婚禮の夜忌詞

發兌

大阪市東區南新町壹丁目　鳳文社

賣捌所

東京々橋區元數寄屋町一丁目三番地　誠文社

大阪市東區南新町一丁目　秋田屋

大阪市東區釣鐘町二丁目七十七番屋敷　文華堂

特26
229

試験及第法

国立国会図書館

049058-000-8

特26-229

試験及第法

黒田　広哉／著

M22

BEK-0041